

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491200012		
法人名	有限会社 スマイルリース		
事業所名	グループホーム 陽だまりの丘		
所在地	大分県豊後大野市千歳町新殿1233番地1		
自己評価作成日	平成31年3月1日	評価結果市町村受理日	令和 元年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan_i=true&JigyosyoCd=4491200012-00&PrefCd=44&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府宅番館 1F
訪問調査日	平成31年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念でもある「人尊優顔の精神で地域福祉に貢献します」という考えに基づき、優しい心と思いやりを持って、認知症の利用者に対応している。特に、パーソンセンタードケア、ユマニチュードの療法を取り入れて、「認知症マインド療法」として取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な季節感あふれる自然環境の中、人格と個性を尊重し、家庭的で落ち着いた雰囲気の下で日常生活を支援します。との運営方針のもと、管理者と職員は利用者一人ひとりの糧やかで安らぎのある暮らしと自立・尊厳を保持できる支援を行っています。地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域交流に力を注いでおり、地域行事(小学校運動会・夏祭り・ひょうたん祭り等)に利用者とともに参加し、祭りに出品した作品を事業所に展示したり、事業所の行事に多数の近隣の方の参加があります。9月の満月の夜に行われる「観月祭」では隣接する障害者福祉施設の利用者を招待し地域の方、家族等大勢の方が集まり、地域貢献の一つになっています。学生の実習・ヘルパー研修の受け入れ等地域との関係構築の評価が、社会福祉協議会より表彰を受けることになり事業所の優れている点です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の目にふれる場所に掲示することで、周知を図り理念に添った精神をもち、実践につなげている。	理念は毎日の朝礼時に職員で唱和し、周知を図っています。パンフレットに記載されている「人尊優顔」は職員に浸透しており、担当者会議で支援の具体例を出し理念を通した実践に繋げる話し合いをしています。	理念「人尊優顔」を通し、職員は人を尊び、優しい笑顔(心)の精神で思いやりを持ってケアに当たると会議等で唱和し共有と実践に繋げています。今後更に理念をもとに、各職員で年間目標を立て実践に活かすことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、児童クラブの子供達が定期的に来所し、歌や踊りを披露してくれる、また地域の行事に参加し積極的に交流を図っている。	今年度の目標達成計画に地域との更なる関係強化を掲げ、地域活動や行事に積極的に参加・協力を行っています。小学校の運動会で、利用者の見学の為にテント・椅子を用意して頂き感謝するとともに、事業所行事にも地域の方を招待し交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	藤華の学生の受入を毎年実施している。又ヘルパー研修の受入れも随時行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告書や、活動や取り組みを報告し、委員方々の率直な意見を聞いている。職員会議を設けて利用者のケアの向上に努めている。	会議は定期的開催しており、事業所や利用者の現状報告・ヒヤリハット対応等を報告し、事業所に対する要望等を提起し意見交換を行っています。会議の内容は職員会議で報告、共有化しサービスの質の向上に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、現状をしっかりと報告して、その際に毎回、指導を頂いている。	運営推進会議には毎回出席頂き、事業所での取り組みや現状報告、相談等で、アドバイスを頂いています。行政からの情報はメールで届くことが主ですが、出向いて指導・協力を頂き迅速な対応で事業所の質の向上に取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回、身体拘束廃止委員会を実施し、職員で検討しつつ、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止・虐待防止に関しては法人全体で取り組み、各部署の代表者が集まり「身体拘束廃止委員会」を設置し、毎月研修を行っています。研修報告、勉強会を全職員で検討し、拘束・虐待の被害等全員が正しく認識しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市、県が開催する会議に出席し、学ぶ機会を設けている。また、拘束廃止委員会の中でも、周知徹底を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者のいない状態ですが、研修会等で各制度を学ぶ機会に接し、知識の共有を図っていくように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約内容や利用料などを説明し、利用者、ご家族の希望や不安などの話も考慮し、十分な理解や納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに、ご家族からの意見要望を伺うようにしている。また、日頃から、利用者に聞き取りを行い、サービスに反映できるように取り組んでいる。	利用者の意見等は日頃の会話・言動・表情から推察しています。家族の意見は、面会時や家族会・行事への招待・毎月の利用者の近況報告を行う中で、意見・要望等を伺う機会を作っています。面会に来られない家族にはメール・電話で直接話す中で意見をうかがって運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者会議を開いて、その中で、職員からの要望などを提示して、運営に反映するようにしている。	管理者は業務の中で、職員とのコミュニケーションを図り、意見やアイデアを出す機会を作っています。お互いのケアや普段言えない意見等も出ることが多く、気づきや共有すべき積極的な意見は管理者会議で提示し業務改善に活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の働き方を設定して、無理なくやりがいを持って働ける様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加し、資格試験の受験ができるように体制をとっています。また、事業ごとに会議を行い、質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のネットワーク会議で研修に参加し、研鑽に取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に表情観察を行い、優しい声掛けをし、コミュニケーションを図り、安心して過ごせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との連携、意思疎通を図り、定期的に利用者の状態を伝える事で、円滑な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の希望・要望を受け入れて、先ず必要としている支援を見極めている。他のサービスが必要な時は、関係機関と連携を図り、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関わることを大切にしている。その中で共に清掃、洗濯物をたたんだり、おやつ作りを行うなどしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回、定期通信で利用者の様子を知らせている。面会時には、居室で談笑したり、また、レクリエーションに参加していただいて、利用者の様子を見ていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、ゆっくりと会話ができる様、配慮に心懸けている。	職員は利用者一人ひとりの馴染みの関係を生活歴や家族の話から把握に努めています。知人が隣接するデイサービスの利用時に遊びに行ったり、地域で暮らしてきた繋がりが続いています。レクリエーションの中で、回想法を取り入れ話題にする支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を職員がしっかりと把握して、利用者同士がスムーズに交わるように環境づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、現状関係は途切れて、相談、支援などを行うことはありません。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、表情観察を行い、コミュニケーションをしっかりととり、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、ご家族から情報を得るようにしている。	職員は日頃より利用者へ寄り添うことを大切にし、言葉だけでなく仕草・行動からもくみ取り、家族の意向を参考にしながら、利用者の思いを大切にしたい意向の把握を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始の時、ご家族、ケアマネから情報を得て、本人に沿ったサービスが提供できているか、ケア会議のなかで話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズム、心身状態を職員全員が把握するように努めている。(バイタルチェック、排泄、食事など)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員の意見を聞き、また、介助を行いながら、現状に即したプラン作りをしている。月に一回モニタリングをし、実行できているか話し合いながら、必要なケアを取り入れている。	利用者・家族の意向を確認し、主治医の意見も踏まえた担当者会議で、個々に応じた介護計画を作成しています。毎月モニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しています。サービスが適切に実施されているか毎日の業務日誌で評価しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録簿に日々の様子やケアの実践、結果、気づきなどを記録している。変化したときは、職員会議を開いて、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに対応できるようにしている。デイサービスの会場で、年に数回合同で、多機能的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児、児童館、ボランティアの方が年に数回来所する事で、触れ合う機会を得て、心豊かに楽しく過ごしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望する主治医を決め、受診や訪問診療で、連携を図りながら、支援している。	利用者の受診の経過や、現在の健康状態の把握に努め家族からの情報をもとに、その都度通院や適切な服薬管理が出来るよう支援しています。日々のバイタルチェックやかかりつけ医の情報を記録しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が利用者の日々の体調の変化などに気づき、職場内の看護職に伝えて、適切な受診を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は医療機関と連携を取り、利用者の状態確認を行っている。退院時は、事前カンファレンスに参加し、情報共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向に従い、看取りを行う場合は、訪問看護と連携を取り、行っている。	重度化した場合、事業所として対応できる支援は入所時、家族に「看取り指針」にて説明しています。重度化に至った場合、医師の話や状態をその都度知らせ、終末期を家族・医師・職員で見守っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署と連携を図り、定期的にAEDや応急手当、心肺蘇生の訓練と指導を受け、急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署の協力を得て、避難訓練を実施し、火災通報訓練や、避難経路の確認と消火器の使用訓練を受けている。	災害時の対応マニュアルは完成していませんが、災害用の食料・飲料水などの備蓄をしています。地域と連携しての災害対策は、雪・地震・台風などで生じる道路寸断の恐れがあることを想定しての訓練を計画しています。	夜間の火事や地震の時は、少数の夜勤の職員では対応が困難な状況も予想されます。周辺地域の協力体制の強化や、非常時の職員の連絡網・避難時の避難経路等の構築が期待されます。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念を提示し、意識付けを図っている。入浴時は個別対応し、排泄時は戸を閉め、声掛けもプライドを傷つけないよう配慮している。	日常生活の中で、気づいたことを職員間で話し合い共有し支援しています。利用者の生活歴や好み等可能な限り全職員が理解した上で対応しています。	起床時の対応等、一人ひとりのペースを把握し、利用者の意見、思いを尊重し、職員のペースにならないよう支援されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添い接しながら、本人の思いや希望を受け止め、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、本人のペースに合わせ、食事や入浴時間をずらしたりして、不満なく過ごせるように個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一回、美容師来所で、カットしている。爪切りも随時行い、衣服も職員がそろえて、身だしなみを整えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嚥下状態に合わせて、食事形態を考慮し対応している。おやつは、希望を取り入れながら、提供している。	利用者の好みのものを聞いて、食事やおやつを食べやすく出しています。甘いものやペースト状にしたもの、わらびもち・おやき・寒天など手作りのおやつは特に喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量は毎日チェック記録し、充分に摂取出来ているか、職員間で、情報共有に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、朝昼夕と3回行い、口腔内の清浄と誤嚥性肺炎などの予防を兼ねて、支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の訴えがあった時は、スムーズに誘導を行っている。また、定時誘導を行う事で、尿便失禁がないように介助し、気持ちよく過ごせるよう支援に努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、声かけや誘導は一人ひとり必要に応じて支援しています。出来るだけトイレでの排泄が出来るよう、便秘対策・失禁時の対応も利用者にも負担がかからないよう丁寧に対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを基に、水分補給や歩行を促して、自然排便できるよう支援している。おやつにも、バナナ、芋など繊維質の多い食材を提供する様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、個々のその日の体調や、希望などを聞いて、本人に沿った支援をしている。	利用者一人ひとりの、入浴習慣やその日の体調等を聞いて、家族の意見や本人の嫌がる原因が何かを把握した上で、週2回、月・木、火・金のどちらかに入浴してもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に限らず、本人の体調を見て、ソファ、畳の上で休息したり、いつでも眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の薬の処方箋で把握に努め、また、服薬の変更や中止などの情報共有にも努めている。食前食後は、確認を行いチェックしている。状態の変化にも対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別機能訓練を行い、ADLの維持向上を図り、外園を歩いたりできるよう支援し、気分転換を図っていただいている。また、タバコ、お酒なども主治医と相談しながら、楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせて、散歩、外気浴を行っている。また、地域の行事や、四季折々の花見などにも出掛けしている。個別に外出希望があれば、その都度対応に努めている。	利用者各自の外出希望があり、職員も出来る範囲で支援しています。家族が訪れて一緒に散歩し、外食やドライブ等楽しめるよう職員と家族双方で協力して取り組んでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での管理を希望押される方を除き、ほとんどの方が、家族が管理されている。管理できる方は、家族と話し合いながら、おこずかいを所持していただいている。買い物に行ける人は同行するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に電話をかけたり、手紙を出すことは、自由であり、いつでもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節感のある飾り付けを行うようにし、共有空間には、絵画を展示し、楽しめるような環境作りに努めている。	日常の多くの時間をゆっくり快適に過ごして頂けるよう、リビングには季節の花や昔なじみの歌・絵を飾り利用者が自由に歌ったり・テレビを見たり・家で暮らしていた時と同じように安心して過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常はホールでソファに座り、TVを見たり、お茶を飲まれている。一人でいたいときは、個人専用の椅子スペースを利用したり、自由にくつろげるように、居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人、家族が思い思いに工夫して飾り付けなどを行い、安心して暮らしていただける様にしている。	居室は、日当たりや眺めが良く、各自好きなものを自由に置き、家族の写真や馴染みの物に囲まれ居心地の良い場所になっています。夜間見回り時、気づきがあれば事故防止の為、職員で情報を共有しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在自力歩行可能な利用者は4名で、介助見守りながら、「できる事」「わかる事」を活かして、安全に自立した生活が送れるように支援しています。		